

## 第二章 千葉の皇室関連施設

### ● 皇室の狩猟場 —— 習志野原・新浜

千葉県内の皇室に関連する施設として、御猟場・鴨場・御料牧場などがあげられます。このうち陸軍の練兵場であった習志野原に明治十四年（一八八一）に設置されたのが習志野原御猟場です。明治天皇が狩猟で行幸することはありませんでしたが、大正十一年（一九二二）に廃止されるまで、皇太子時代の大正天皇や、皇族が狩猟に訪れました。



### 7 千葉県下習志野原御猟場全図

大正九年（一九二〇）

宮内公文書館蔵

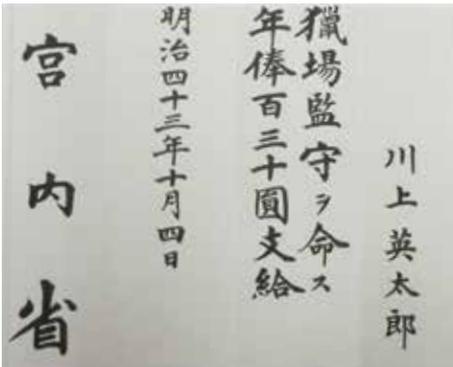
宮内省主猟寮が保有していた地図を写したものです。四つの管理区域を色分けし「雉子」<sup>(きし)</sup>、「兔」<sup>(うさぎ)</sup>など、狩猟対象の動物の名前が書かれています。

### 8 監守任命書

明治四十三年（一九二〇）

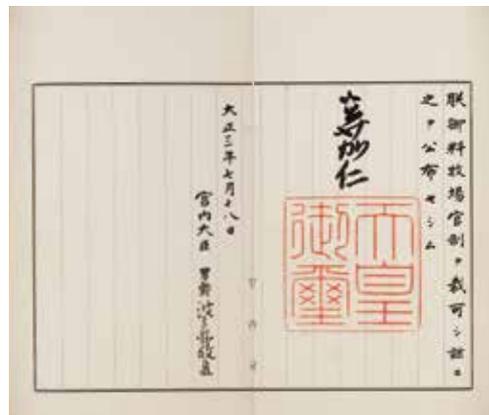
白井市教育委員会保管

川上英太郎は白井村長や千葉県会議員などを歴任した人物で、明治四十三年に任命された後、大正二年（一九一三）まで御猟場の監守を務めました。明治四十二年に拡張された白井村（現・白井市）地域を担当していました。



### ● 牧から御料牧場へ

江戸時代を通じて、下総地域には大規模な幕府直轄の牧が置かれていました。そのうちのひとつ、佐倉牧を基盤として、明治八年（一八七五）に開設されたのが下総牧羊場と取香種畜場<sup>とっかうしゆくじやう</sup>です。両場は明治十三年に統合され翌十四年に農商務省管轄の下総種畜場となりました。同年の行幸後、明治天皇の「思召ノ次第」により明治十八年、宮内省に移管されました。明治二十一年には下総御料牧場と改称し、昭和四十四年（一九六九）の閉場まで牧羊・育牛・育馬・養豚などの事業が行われていました。



### 9 御料牧場官制(皇室令録のうち)

大正三年（一九一四）

宮内公文書館蔵

御料牧場は宮内大臣の管理に属しました。御料牧場の組織・職掌などを定めた法規を裁可したものです。大正天皇の御名と御璽が見えます。

（御料…皇室の財産）

（裁可…君主が裁決して許可を与えること）

### 10 下総御料牧場の風景

明治・大正／千葉文書館蔵

三里塚菅呉服店発行。下総御料牧場での、乳牛の放牧の様子を絵葉書にしたものです。

